

2月度 座談会

拝読御書

だいあく だいぜん ごしよ
大悪 大善 御書

本文

大事だいじには小瑞しょうずいなし、大悪だいたくおこれば大善だいぜんきたる。すで
に、大謗法だいほうぼう、国くににあり。大正法だいしょうほう、必ずかならひろまるべ
し。各各おのおのなにをかなげかせ給たもうべき。迦葉尊者かしょうそんじやにあ
らずとも、まいをもまいぬべし。舍利弗しやりほつにあらねど
も、立たつておどりぬべし。上行菩薩じょうぎょうぼさつの大地だいちよりいで
給たまいしには、おどりてこそいで給たまいしか



通解

だいじ お まえ ちい ずいそう だいあく お
大事の起こる前には小さな瑞相はない。大悪が起これば
だいぜん だいほうほう くに だいしょうほう
大善がくる。すでに大謗法が国にある。それゆえ、大正法
かなら ひろ なに なげ
は必ず広まるであろう。あなたたちは何を嘆かれることが
かなら だいぜん よろこ かしょう そんじゃ
あるか。(必ず大善がくるとの喜びに) 迦葉尊者でなく
まい まい しやりほつ た
ても、舞を舞うべきところである。舍利弗でなくとも、立
おど じょうぎょうぼさつ だいち あら とき
って踊るべきところである。上行菩薩が大地から現れた時
おど で
には、まさに踊り出られたのである。



拝読のポイント①

★大難は広布前進と境涯革命の好機

事が起きた時に、それを前進への変

化の兆しと捉え返して、

断固として善の方向へ転換していこ

うとする確固たる一念

と実践があつて、初めて大善の瑞相

となるのです。

拝読のポイント②

★^{かんき}歡喜に^{やくどう}躍動する「^{せいがん}誓願の^{しんじん}信心」を

^{まっほう}末法における^{みょうほう}妙法流布の^{しめい}使命を^{たく}託す
^{しん}真の^{でし}弟子を呼び出した時、^{むすう}無数の^じ地
^ゆ涌の^{ぼさつ}菩薩が大地から^{おどり}踊り出ました。
^{だいしょうにん}大聖人に^{つら}連なる私たちは、^{だいしょうにん}大聖人が
^{おお}仰せの“^{じゆ}地涌の^{しめい}使命”を^{じかく}自覚し、
^{ひび}日々、^{せいがん}誓願の^{しんじん}信心で^{こう}広布に^{しん}まい進し
ています。



まとめ

もっと きび じょうきょう だいしょうほう かなら
最も厳しい状況だからこそ「大正法」が必ず

ひろまるのだと力強くご断言されています。

ここで大事なことは大悪が起こった後に、

自然に大善が起こるわけではありません。

大変な時こそ信心根本に

題目を唱え、勇気の心で前進することが、

大悪を大善に変えるカギとなります。